

センターだより

和歌山県障害者社会参加推進センター

〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛5階

発行人 鳴 神 賢

TEL 073-423-2665

FAX 073-428-0515

「スローガン」 障害者の防災 対策・意識の 強化を図ろう

令和5年度 県障害福祉課予算

2月13日(月)に開会した和歌山県議会2月定例会は3月7日(火)に閉会し、令和5年度の予算が決まりました。

障害福祉課関係予算は、総額で140億4,790万2千円となっています。

県における障害者施策に関する基本的な計画である「紀の国障害者プラン2018」に基づき、障害のある人もない人も社会の一員として互いに人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」を実現できるよう、生活支援、就業支援、相談支援等各種事業

を実施してまいります。まず、生活支援として、視覚・聴覚の重複障害の方々の意思疎通や外出の支援を行う「盲ろう者向け通訳・ガイドヘルパー派遣事業」については299万2千円、失語症のある方々のコミュニケーション及び外出同行等の支援のために人材の養成・派遣を行う「失語症者向け意思疎通支援者養成及び派遣事業」については562万5千円、身体障害者手帳の対象外となつている軽度・中等度難聴児の補聴器購入を補助する「難聴児補聴器購入費補助事業」については204万9千円、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう障害のある方々を支援する

「市町村地域生活支援事業」については3億2,275万5千円を計上しています。次に、就業支援として、就業面と生活面の一体的な支援を行う「障害者就業・生活支援センター運営事業」については3,298万4千円、障害者のインターンシップ支援や障害者の就業を促進するための居宅介護職員初任者養成研修を行う「チャレンジ就労サポート事業」については1,122万円、障害者就業施設等の販路拡大・受注促進等のコーディネート等及び福祉連携推進を行う「チャレンジド工賃水準倍増事業」については1,725万円を計上しています。

次に、相談支援として、発達障害者支援センターの運営を行う「発達障害者支援体制整備事業」については4,553万5千円、障害者の虐待防止対策のために市町村や事業所の職員への研修会等を実施する「障害者虐待防止対策支援事業」については1,200万9千円、乳幼児の聴覚障害について、専門性を有する相談員を配置し、聴覚障害児と保護者への療育相談等を行う「聴覚障害児の早期支援体制整備事業」については1,228万2千円を計上しています。

次に、障害者スポーツ・文化芸術の推進として、子ども・女性・障害者相談センターのプールの建替工事を

行う「相談センター体育施設整備・運営事業」については4億7,352万円、障害のある人の文化芸術活動を支援する「障害者芸術文化活動推進事業」については444万1千円を計上しています。

この他、あいさポーターの養成やヘルプマークの普及啓発等を行う「あいサポート運動推進事業」については311万円、精神科病院に入院する長期入院患者に対し、医療機関と相談支援事業所が協働し入院中から退院支援を行い精神障害者の地域移行等を支援する「精神障害者地域生活支援体制整備事業」については1,192万6千円、自殺対策としてSNS相談や24時間の電話相談等を行う「命のセーフティネットワーク事業」については8,000万7千円、ギャンブル等依存症の予防や依存症からの早期回復の支援を行う「ギャンブル等依存症対策事業」については341万5千円、メンタルヘル스에課題のある人の社会参加を支援する「農業によるメンタルヘルスケア推進事業」について

では、2,550万円を計上しています。

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

「有料道路における障害者割引制度の見直しについて」1人1台要件の緩和とオンライン申請を導入し、令和5年3月27日(月)にご利用の際のお願い(1)1人1台要件の緩和(2)ご利用の際のお願い

令和5年度障害福祉課予算の主な内容

- 地域生活支援事業関連
【R5当初予算額 5億445万円】
(1) 県地域生活支援事業
① 専門性の高い相談支援
・発達障害者支援体制整備
・高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及
・聴覚障害児の早期支援体制整備
② 専門性の高い意思疎通支援
・手話通訳業務推進
・盲ろう者向け通訳・ガイドヘルパー派遣
・失語症者向け意思疎通支援者養成及び派遣
③ 広域的な支援
・県相談支援体制整備
④ サービス提供者等の人材育成
・障害福祉従事者資質向上研修
⑤ 社会参加支援
⑥ 権利擁護支援
(2) 市町村地域生活支援事業への県補助
- 地域移行・一般就労促進関連
【R5当初予算額 8,142万4千円】
・精神障害者地域生活支援体制整備
・グループホーム充実支援
・障害者就業・生活支援センター運営
・チャレンジ就労サポート
- 障害者の工賃水準向上関連
【R5当初予算額 1,725万円】
・チャレンジド工賃水準倍増
- ひきこもり支援・自殺対策関連
【R5当初予算額 8,198万3千円】
・ひきこもり対策推進体制整備
・“命”のセーフティネットワーク
- 新たな社会的ニーズに対応した施策関連
【R5当初予算額 3,649万9千円】
・農業によるメンタルヘルスケアの推進
・あいサポート運動推進
・障害福祉分野生産性向上推進
・ギャンブル等依存症対策
- 障害者スポーツ・文化芸術の推進
【R5当初予算額 5億867万5千円】
・相談センター体育施設整備
・障害者スポーツ振興
・障害者芸術文化活動推進
- 自立支援給付、児童福祉施設給付、重度心身障害児者医療費関連
【R5当初予算額 119億8,905万6千円】
・障害者援護(自立支援給付に係る県負担)
・児童福祉施設給付費
・重度心身障害児(者)医療費補助
・自立支援医療
- 和歌山県視覚障害者情報提供施設維持管理運営委託
【R5当初予算額 7,805万円】

- 令和5年度障害福祉課予算における身体障害者に関する主な事業(上記1~7の事業も含む)
* ()内はR5当初予算額
・自立支援医療(育成医療・更生医療)(4億6,305万4千円)
・障害者福祉振興(1,624万9千円)
・障害者社会参加促進(1,571万1千円)
・特別障害者手当等支給(7,805万8千円)
・更生相談所運営(659万9千円)
・手話通訳業務推進(3,046万7千円)
・障害者スポーツ振興(3,071万4千円)
・身体障害者手帳等交付システム管理(694万円)
・身体障害者補助犬給付(198万円)
・盲ろう向け通訳・ガイドヘルパー派遣(299万2千円)
・難聴児補聴器購入費補助(204万9千円)
・和歌山県視覚障害者情報提供施設維持管理運営委託(7,805万円)
・失語症者向け意思疎通支援者養成及び派遣(562万5千円)
・障害者芸術文化活動推進(444万1千円)
・相談センター体育施設整備(4億7,352万円)

- 5月27日(土)
和歌山県身体障害者連盟理事会
(和歌山市)
- 6月16日(金)~22日(木)
第68回日本身体障害者福祉大会わかやま大会(オンライン)
(和歌山県)
- 6月17日(土)(予定)
和歌山県身体障害者連盟評議員会・理事会
(和歌山市)
- 6月11日(日)
第50回夢ふれあい俳句大会
(和歌山市)
- 6月11日(日)
第71回全国ろうあ者大会in
おおいた
(大分県)

- 【行事予定】
○5月21日(日)
第23回和歌山県障害者スポーツ大会開会式・陸上競技(紀三井寺公園陸上競技場)
(奈良県)
- 5月21日(日)~22日(月)
第76回全国視覚障害者福祉大会
(奈良県)

およびマイナポータルへのご登録が必要となります。
・オンライン申請がご利用できない方等のため、市区町村の協力のもと、福祉事務所等による申請受付も継続します。

令和5年3月27日(月)
①ご利用開始日
②ご利用の際のお願い
(1)1人1台要件の緩和
・事前登録のない自動車をご利用する場合、料金を支払う料金所において一旦停止いただいたうえで、係員が障害者手帳の記載事項等と障害者本人の同乗(本人運転又は介護者による運転)の確認等を行います。
・重度の障害者の方がタクシー等をご利用する場合は、タクシー等の予約時又は乗車前に有料道路の障害者割引を利用する旨をお申し出いただき、タクシー事業者等に対応可能か必ず事前に確認を行ってください。なお、タクシー等のご利用の場合は、重度の障害者の方が割引の対象となります。

(2)オンライン申請の導入
・ご利用にあたっては、本人確認のためマイナンバーカード

障害者差別解消法の改正に向けて

令和4年12月21日(水) 和歌山県民文化会館で、和歌山県障害者差別解消支援地域協議会(以下県地域協議会)が開催されまし

1. 県地域協議会とは、地域における障害者差別に関する相談等について情報を共有し、障害者差別を解消するための取組を効果的かつ円滑に行うネットワークです。

出席者は、和歌山県障害福祉課、和歌山県振興局健康福祉部、市町担当課、障害者団体、福祉事業団体、和歌山県経営者協会、和歌山県商工会議所連合会、弁護士会、和歌山山方法務局、和歌山労働局、和歌山県教育委員会、和歌山県警察本部、他、一堂に会して開催されました。

○障害を理由とする差別解消の推進に関する法律が2016(平28)年4月に施行されています。国及び地方公共団体が求められていることとして

・障害を理由とする差別(以下「障害者差別」)の解消の推進に関する施策の策定と実施(法第3条)
・障害者差別の解消に資する体制の整備(法第14条)、県地域協議会を組織することができる。(法第17条)

改正法のポイントは、これまで民間の事業者の「努力義務」とされていた合理的配慮の提供が、国や地方公共団体などと同様に「義務」(法的義務)とされた点です。

この改正法は、2021(令和3)年6月4日公布。今後、公布日から3年を超えない範囲で施行され、民間事業者は、障害者に対し、合理的配慮を行わなければならない。

対象となる障害のある人は、①視覚障害のある人、②聴覚障害のある人、③肢体不自由のある人、④内部障害のある人、⑤起因する障害のある人、⑥精神的障害のある人、発達障害を含む。

2. 各障害者に対する合理的配慮とは
(1)障害者差別解消法には、「合理的配慮」の定義はありませんが、日本が批准している障害者権利条約によれば、合理的配慮とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」とされています。(障害者権利条約2条)

3. 県地域協議会の役割は
(1)相談機能の向上
各相談機関等が対応した相談の解決事例に関する情報を共有することにより、同様の事案が発生時の迅速かつ的確な対応を図る。

(2)相談対応にかかる関係機関による意見交換(部会設置)
各相談機関等における相談対応について、地域協議会での意見交換が必要な場合、関係機関による部会を設置し、出席者それぞれの立場からの協議を行い、相談機関における取組を後押しする。

(3)障害者に対する理解の推進
各相談機関が対応した合理的配慮に結びついた相談事例に関する情報を共有することによって、より多くの機関等における取組の実践を促す。
4. 今後の取組み、スケジュールについて
(1)令和4年度中、国が基本方針を改定
・具体的な差別事例や合理的配慮の提供事例記載他
(2)令和5年度 関係府省庁所管事業分野ごとに対応指針を改定
県地域協議会としては、障害のある人への「不平等な差別的取り扱い」事例等を提示していき、障害の特性が理解される啓発に寄与する。和福連としても積極的に「精神障害のある人」の事例など明示してまいります。

安全な大会等にするため

に、今年度も2週間の検温などの体調管理を必須としました。2週間の体調管理についてはこの2年でかなり理解が進み、体調チェックシートの不備により参加をお控えたいただくことはほぼ無く、スムーズな運営が行えたことをうれしく思っています。何より3年ぶりに開催した県障害者スポーツ大会には、延べ443名の方が御参加くださり、また、初めてポッチャ競技を実施することができました。

新型コロナウイルス感染症が比較的落ち着いた初夏の開催であったものの、濃厚接触等で、出場を辞退せざるを得ない方もいらつしやうたことは残念でしたが、参加者からは「県スポが開催されて、スポーツのやる気が出てきた」、「みんなの元気な顔が見られてうれしい」、「出場するために自主練習を頑張ったよ」などといったお声をいただき、スポーツの意義や「県スポ」の開催の大切さを改めて認識しました。

また、障害者スポーツ教室については、企画は行うものの、いざ募集を始めようという段階で、新型コロナウイルス感染症の感染が増加傾向に転じるなどで、断念することが多くありました。これまで機会がなかった田辺や新宮など紀南地域の選手と親交を深め、地域で活動している指導者と連携体制を更に構築できればと考えていました。来年度以降の課題とし、新たな選手や指導者の発掘を行い、各地域で気軽に障害者スポーツを楽しめるようにしたいと思えます。

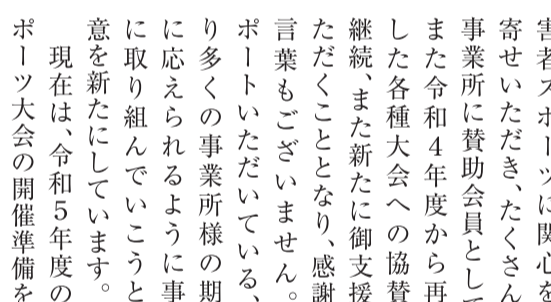
また、令和4年度は県障害者スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会の準備等の合間をぬって、事業所訪問活動にも力を入れて取り組みました。新型コロナウイルス感染症に加え、物価高や為替相場の変動による経営状況の懸念があるにもかかわらず、障害者スポーツに関心をお寄せいただき、たくさんの方の事業所に賛助会員として、また令和4年度から再開した各種大会への協賛を継続、また新たに御支援いただくこととなり、感謝の言葉もございません。サポートいただいている、より多くの事業所様の期待に応えられるように事業に取り組みしていこうと決意を新たにしています。
現在は、令和5年度のスポーツ大会の開催準備を進めているところですが、今なお新型コロナウイルス感染症の影響は予断を許さない状況です。「冬来りなば春遠からじ」の言葉を胸に、今後も競技団体や関係団体の皆さまと意見交換し、感染防止対策を講じながら大会等を開催する予定です。参加される皆さまにも一定期間の体調管理、当日の体温チェック、競技時以外のマスク着用や手指消毒の徹底などの御協力をいただき、安全な大会運営に取り組みたいと考えています。

冬来りなば 春遠からじ

令和4年度も、新型コロナウイルス感染症は変異ウイルスの出現により、令和4年の夏ごろに第7波、そして年末から第8波と、新規感染者数の増加と減少が繰り返されました。しかし、ワクチン接種が進んだことなどから、3年ぶりに全国障害者スポーツ大会が栃木県で開催され、また本会も日本パラスポーツ協会が発出したガイドライン等を参考に感染防止対策を講じながら、県障害者スポーツ大会や和歌山ふれあい交流卓球大会、車椅子バスケットボール等の浦杯などの各種大会や障害者スポーツ教室を開催しました。
事業の開催にあたり、参加者や運営スタッフに負担をかけるものの、安心・安全な大会等にするため、今年度も2週間の検温などの体調管理を必須としました。2週間の体調管理についてはこの2年でかなり理解が進み、体調チェックシートの不備により参加をお控えたいただくことはほぼ無く、スムーズな運営が行えたことをうれしく思っています。何より3年ぶりに開催した県障害者スポーツ大会には、延べ443名の方が御参加くださり、また、初めてポッチャ競技を実施することができました。

令和4年度和歌山県障害者親子のつどいが3年ぶりに開催

障害児者とその家族等が旅を通じて相互の親睦と交流を深めることで、日頃の疲れを癒し明日への鋭気を養い、意見交換を行うことで障害児者福祉の増進に資することを目的に令和5年1月13日(金)〜14日(土)にかけて和歌山県障害児者親子のつどいが開催されました。



令和4年度和歌山県障害者親子のつどいが3年ぶりに開催

令和4年度障害者等用駐車場の適正利用啓発

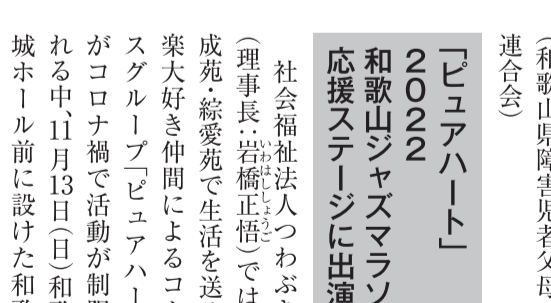
肢体障害者部会と県障害福祉課との共催で、11月21日(月)にスーパーエバグリーンプラズ和歌山北インテント店で、25日(金)にはスーパーセンターオークワセントラルシティ和歌山店で、障害者等用駐車場の適正利用啓発活動を行いました。県・部会あわせて21日は9名、25日は



令和4年度障害者等用駐車場の適正利用啓発

「ピュアハート」2022 和歌山ジャズマラソン 応援ステージに出演

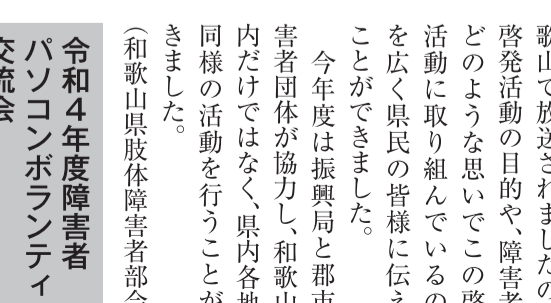
社会福祉法人つわぶき会(理事長:岩橋正悟)では、綜成苑・綜愛苑で生活を送る音楽大好き仲間によるコーラスグループ「ピュアハート」がコロナ禍で活動が制限される中、11月13日(日)和歌山城ホール前に設けた和歌山ジャズマラソン応援ステージにおいて出演されたミュージシャンとのセッションコンサート10曲を披露し、ランナーにエールを送りました。



「ピュアハート」2022 和歌山ジャズマラソン 応援ステージに出演

令和4年度障害者パソコンサンティア交流会

2月25日(土)、令和4年度障害者パソコンサンティア交流会に、点字図書館に登録しているパソコンサンティア6名が参加されました。



令和4年度障害者パソコンサンティア交流会

第56回 近畿肢体不自由児者福祉大会 滋賀大会
11月6日(日)に近畿肢体不自由児者福祉大会が滋賀県で開催されました。近畿2府4県の父母の会連合会が

持ち回りで行っているもので、「住み慣れた地域で共生社会の実現に向けて」をテーマに和歌山県障害児者父母の会連合会からも参加いたしました。
令和3年9月に施行された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」を受けてさらなる共生社会を推進する大会決議が採択されました。

町長の小谷芳正氏から歓迎のご挨拶、ご来賓の皆様を代表して県議会議員の坂本登氏からご祝辞をいただき、紀の川市の参加者から謝辞が述べられました。コロナ禍で3年ぶりの開催となりましたが、参加者248人が一泊二日の旅を満喫しました。

8名が参加し、チラシとウェットティッシュの配布を行いました。
チラシを受け取った後、利用証の交付をして欲しいとおっしゃる方もいて、その場で説明を受ける様子も見受けられました。また、21日の啓発活動の様子は、テレビ和歌山で放送されましたので、啓発活動の目的や、障害者などのような思いでこの啓発活動に取り組んでいるのかを広く県民の皆様へ伝えることができました。

今年度は振興局と郡市障害者団体が協力し、和歌山市内だけでなく、県内各地で同様の活動を行うことができました。